

フロムワンとお取引頂きましたユーザーさまにお届けするニュースレター。

# 「1から」通信

発行部数 250部 平成22年秋号(21号)

山本 達也

発刊者 (有)フロムワン  
 川口市東川口1-16-6-2F  
 TEL 048-291-2240  
 FAX 048-291-2242  
 URL: <http://www.from1.jp>

## 取り扱い業務

FAX/コピー機/複合機  
 リサイクルトナー等サプライ品  
 業務用IP電話システム  
 電話工事/LAN工事  
 インターネット環境のコンサルティング

朝夕、めつきり涼しくなり、夜にはコオロギや鈴虫の声が心地よく眠りを誘ってくれる季節になりました。

皆さん、お元気ですか？ (有)フロムワン 山本です。

先日、早めに帰宅した夜、五才の息子と布団の中で夢を語り合いました。

昨年までウルトラマンに夢中だった彼ですが、今年の夏から、魚とカブトムシの虜になっています。

息子 「お父さん、ボクね、夢が増えたよ。」

私 「おう、いいねえ、教えてくれよ。」

息子 「うん。ボクね、大人になったら、漁師さんになって虫と結婚したい！」

：ム、ムシと結婚!? 薄明かりの中、目をキラキラさせて夢を語る彼に、私は、「が、がんばれ……。」と励ます(?)しかありませんでした。

その日以来、息子は毎日、毎日、ノートに虫の絵を十匹以上、描き続けております……。 (汗)

そ、そうです！「念ずれば、花開く。」

気が付けば今年も残りわずか！

私もこの精神で、二〇一〇年を乗り切るぞ！ (意味不明)



## 読書の秋。おすすめ本特集！！



これまで、創刊号から毎回(主に)おすすめの本を紹介してきましたが、今回は、読書の秋ということで手前味噌ではありますが、これまでの中から特に私の心に残った作品をダイジェストにしてお届けしたいと思います。

これから、読書でも…と考えていらっしゃる方は参考にして頂ければ嬉しいです。

## 創刊号より

## 仕事の思想



< 仕事の思想 >

著者：田坂 広志

出版：PHP研究所

私たちが恐れるべきものは「夢が破れる」ということではありません。

恐れるべきは「力を尽くさぬ」ということなのです。そして、力を尽くして歩み、未来に思いを馳せるとき私たちのなかには、祈りのごとき覚悟がやってくる。

「我々は、後生を待ちて、今日の務めを果たすだろう。」

その覚悟が、静かにやってくるのです。

(本文より抜粋)

感想…涙が出そうになりました。ビジネス書というよりは哲学書？かもしれません。

資本経済の中の自営業者であり、生活者であるかぎり、理不尽であったり、不平等であったりすることを腹にしまいつつそれでも理想をもって仕事をしてゆくことの、

難しさと大切さに気づきました。…深い。(山本)

## 第6号より



< なぜ、時間を生かせないのか >

著者：田坂 広志

出版：PHP研究所

第1号でも、ご紹介させていただいた(仕事の思想)田坂広志氏の本です。

いつも田坂氏の著書には、簡潔な文章の中に、深く問いかけられ、

導いてくれるものがあり、迷った時には何度でも読み返してしまいます。

その度に、違った面から感銘を受けます。

巷にあふれている、安易なタイムマネジメントのテクニックの本ではありません。

人間としての最も深い視点から語られています。

## 第9号より



< 自分に気づく心理学 >

著者：加藤 諭三

出版：PHP研究所

一見、お気軽な心理テストの本かなと思ったのですが、実はかなりディープな内容です。

幼少期、周りの保護者(特に両親)に思いきり甘えることが許されなかった人間は、

大人になっても自己肯定感を持たず、情緒の成熟が果たせない。

幼い頃の無意識の怒りが、根拠のない不安やイライラとして投影され、自身はもちろん、結果好意ある周りの人々まで傷つけてしまう…。

いかに「幼い頃無条件に甘えることができる」ことが大事か。という一言に尽きる本でした。

自分に気付く前に…二人の子供の親として考えてしまいました。

「甘やかすこと」は、親として容易な逃げであり、「甘えさせること」とは、

子供に対してのエネルギーを惜しまないことかもしれませんね。

## 第10号より



Disney映画『カーズ』

今回は、DVDのご紹介です。子供達にと購入したのですが…。

家族全員が見事にハマってしまいました。恐るべしディズニーアニメ。

高慢な若き天才レーサー、マックイーンがひよんなことからルート66の錆びれた田舎町で、冴えない車達と過ごすことになり…。

スリルあり、笑いあり、感動ありの傑作です！登場人物ならぬ車達も皆愛すべき

キャラクターで、CGもスゴイです。また、音楽も素晴らしくのっけからの

レースシーンは何度観ても鳥肌ものです。

## 第11号より



< 生き方 >

著者： 稲盛 和夫

出版： サンマーク出版

あの、京セラ・KDDIの創業者である、稲盛和夫氏の著書です。あまりに高名な経営者／技術者ですので、敷居が高く感じ最初は手に取るのをためらったのですが、

- ・ 人としての原理原則「正さ」を貫くこと。
- ・ 額に汗して愚直に働くことの尊さ、気高さ。
- ・ 今日一日を真剣に、「今」を生きること。
- ・ シンプルであること。

人生の苦・悲・悩・喜・楽を磨き砂として、生まれたときより僅かなりともその魂のあり様を高めようとするのが、生きる意味であり生命の本質である。

更には、宇宙の意思に沿った生き方である、と説きます。

## 第15号より



<シソーの「真ん中」に立つ方法>

著者： 桜井 章一

出版： 竹書房

一晩に何億という金が動く裏麻雀の世界で20年間無敗。

「雀鬼」と呼ばれた伝説の人、桜井章一氏の本です。

メジャーリーガーのイチロー選手、松井選手をはじめ多くの著名人(勝負師)が氏の著書をバイブルにしています。副題が示すよう、他の著書に比べ優しく語りかけるような内容ですが、そこにあるのは、ギリギリの勝負の果てに到達したであろう、桜井章一氏の変わらぬ哲学と美学、そして優しさです。

私も苦しくなったり、行き詰ったりした時、真っ先に手にとるのが桜井氏の著書です。

ふっと気持ちが楽になり、「がんばるぞ！」ではなく「がんばってみるか。」という気持ちにさせてくれます。

## 第19号より



< お金の味 >

著者： 金森 重樹

出版： 大和書房

パソコン1台で億の収入を紡ぎ出す、マーケティングの天才、金森氏の自伝です。東京大学法学部卒。六本木在住。コンサルティング会社、不動産会社、法律事務所経営。氏のメールマガジンを愛読していましたが、このプロフィールに加え、冷徹な程の「理詰めぶり」には、「はあ～、やっぱり頭のいい人は違うんだなあ」と感心していただけでした。しかし、その天才的と言われるマーケティング技術を生み出したものは、25歳で背負ってしまった億を超える借金と、24%の利息だったのです。お金儲けを煽るわけでも、否定するわけでもなく、18年間の借金の業火に焼かれながら、再起するまでのリアルなストーリーです。このような時代だからこそ目をそむけずに「お金」に向き合うきっかけになる本かもしれません。

## 『編集後記』

チリ北部の銅鉱山落盤事故より、地中から2ヶ月ぶりに33名が無事全員救出されました。事故の背景には、採算さえ合えば安全性まで犠牲にして、限られた資源を取り尽そうとする大国や、大資本の思惑、反対に、糧を得る為には劣悪な労働環境で働くしかない、鉱夫達の生活があったと思います。今回のニュースには、私たちもたくさんの勇気と希望を見出しました。だからこそ、一人の大人として、この事故が決してドラマや映画ではなかったことを肝に命じたいと思います。また次号でお会いしましょう。

※ 今回のお役立ち情報は、お休みさせて頂きました。m(\_ \_)m